



樹蔭静けさ

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL : 0155 (37) 5501
発行日 令和5年3月24日

マスクを外して第73回卒業式



3月1日、第73回卒業式が挙行政され、235名の生徒が本校から旅立ちました。

各クラス代表が卒業証書を受け取った後、生徒会長の鎌田潤音さんが卒業生への感謝を述べ、卒業生を代表して5組松井彩月さんが答辞を述べました。その中で、コロナで揺れた高校生活を振り返り、この卒業式で3年間で初めてマスクをはずして向き合うことに触れ、最後に「最初で最後のみみんなでの校歌を歌いましょう」と呼びかけました。卒業式のあと、川嶋あいさんの「旅たちの日に」の歌のビデオメッセージを流した後退場となりました。

卒業生の栄えある未来をお祈りいたします。

高校総体ポスター図案最優秀賞 十勝高校生絵画展最優秀賞

今夏の全国高校総体帯広市開催での競技種目別ポスター図案に本校美術部の生徒作品が選ばれました。女子サッカーは2年の喜多美咲さん、剣道が3年の辻かなでさんの作品です。各競技のポスターやプログラムに使用される予定ということです。三条生デザインのポスターがインターハイを盛り上げることになりそうです。

また、「第19回十勝高校生絵画展」最優秀賞に1年川角晃平さんの「鵜蚌(いっぽう)の争い」が選ばれました。美術部の活躍に今後もご注目ください。



【鵜蚌の争い】



「資格をとって何をしたいのか」を明確に ~ 生徒・保護者へ医療講演会



北海道医療大講師の長谷川聡先生を迎えて、医療系進路希望者を対象とした講演会が生徒向けと保護者向けに分けて実施されました。「夢の持ち方、暮らし方」と題して、まず、こんな人間を目指そうという努力目標として、看護師に求められる資質能力をあげ、次のように話されました。「資格は目的ではなく手段です。『看護師になって何をしたいのか』にしっかり答えられるようにしてください。そして常に学ぶ姿勢を身につけてください。なぜならその資格をとって終わりではないから。その資格で働け限り、もっとよい看護、もっとよい介護を求めて、常に勉強を続けなければなりません。そのためにも自分が好きなこと、やりたいこと、例えば部活動や習い事、趣味をずっと続けてください。スポーツなら培った体力は自分を守ることになるし、お花や音楽や絵画は患者に寄り添う手段として力を発揮することがで

きます。特別なことがなくても家の手伝いとか自分ができる日常のことをしっかりやるのが大事です。自分のやることのある人は燃え尽きることがありません。」

最後に、ぜひ読んでほしい本を紹介して終了しました。

保護者向け講演会では、この内容に加えて看護職に就いたその先のことにも触れてくれました。つまり、キャリアアップには大学や大学院での研修が必要となってくる。そうでなくても、ますます求められる高度医療に対応するには、どうしても資格をとるだけではなく大学や大学院での研修が必要になる現実と、十勝ではそのような人材が不足している現状などもお話ししてくださいました。

これからも質問などがあつたら答えてくださるそうですので、担任の先生を通してでも構いませんので校長までお知らせ下さい。

【推薦図書】

- ・『看護覚え書き』ナイチンゲール
- ・『生きがいについて』神谷美恵子
- ・『ホスピタルクラウン - 病院に笑いを届ける道化師-』大棟耕介
- ・『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』編：くさばよしみ 絵：中川 学

ご退職・異動される先生方から三条生へのメッセージ

◆窪田 範隆 教諭（ご退職）



振りかえり、三条高校での10年間は、あっという間のことに感じます。この間に教育活動も、ICTを導入した授業や、社会人の方々と共に地域貢献のための新しいアイデアを創るとか、今までにない姿を見せるようになりました。私としては、その変化に戸惑いがある一方、これからの教育はいよいよ面白くなるという気もしています。

そんな時節に退職するのはちょっと残念なのですが、これを転機に新しいことにチャレンジしたいとも考えるこの頃です。皆さんも先人から学ぶとともに、新たな事に挑戦し未知の領域を開拓する気持ちを抱きつつ、輝かしい未来に向けて大いに活躍してください。

◆伊澤 秀幸 教諭（ご退職）



38年間の教員生活を終えることになりました。様々な高校の教壇に立つ機会を与えられ、自身も学びながら多くの経験をさせていただきました。私は新しい学校に赴任の際には、いつも新たな体験を期待してできました。三条高校では期待通り、学業でそして課外活動で大活躍の皆さんの、積極的な姿を拝見できました。

元からの用事のため夏の野球応援に参加できなかったのは心残りですが、今年は一観客として応援できればと考えております。私の心の中では、生徒の皆様はこれからも私の生徒であり、そして卒業生です（ご迷惑で無ければ）。十勝管内西の名門、三条に、栄光あれ！

◆松久 芳男 教諭（ご退職）

退職にあたり、生徒の皆さんに感謝の気持ちと激励のメッセージを送ります。

三条では沢山の思い出ができました。有難うございます。7年ぶりに担任をして、学校祭・球技大会等では満面の笑みを見せてもらえました。嬉しかったです。サッカー部の選手は厳しい練習によく耐えてくれた。高体連ではドキドキの試合展開、忘れられません。今年の高体連こそ夢を叶えよう。私は余生をのんびり過ごす身となりましたが、皆さんの人生はこれからです。言うておきますが、『生きる』ってことはたいへんなことです。世の中、急速に変化しています。ついて行くのはたいへんです。思うように行かないことなんて当たり前。正論が受け入れられないことなんてザラで、自分の力の無さを思い知らされるだろう。だけど負けてたまるか、辛いこと全部肥やしにして逞しく生きてゆけ！

皆さんの未来に新しき栄光を！



◆山崎 圭志 教諭（ご退職）

釧路、中標津、石狩、砂川、利尻、札幌、そして帯広と、今まで道内7つの高校を経験しました。そこに行かなければ出逢っていなかった人や景色、食べ物等、たくさんの思い出があります。特に印象深いのは利尻島でした。景色が素晴らしく、食べ物も美味しくて、親切な島の人たちとは今でも繋がっています。利尻から札幌に入った時に「ここ（札幌）で終わるのはもったいないな」と思いました。そして帯広にきました。出逢った人も、景色も食べ物も最高でした。三条のみんなにも逢えて良かったと思っています。若い時の旅は老いてからの物語になります。みなさんもぜひ多くの出逢いと物語を人生で経験してみてください。



◆山本 文彦 教諭（ご退職）



六年前に初めて十勝地方に赴任してきたのですが、三条高校赴任後、なぜか自身の青春時代を懐かしく思い出す経験がありました。それは三条高校応援歌NO. 1『青春の栄え』です。全校生徒が天を指さし元気よく跳ね回る姿が、北大時代の『ストームの歌』を歌い騒いだ自分と重なりました。『ストーム』は肩を組み

円陣を作って、片足を蹴り上げながら「札幌農学校は蝦夷が島！」と囂声で歌うというものでしたが、青春時代の熱いエネルギーの顕現という点で共通しているのではないのでしょうか。三条生の皆さんは、今後も青春のエネルギーを各方面に向けて発露し昇華して行って欲しいと思います。

◆三好 史弘 教諭（上士幌再任用）

三条高校には19年間お世話になりました。この間に学校はずいぶん変わりました。校舎はそれなりに年季が入り、1学年8クラスだったのが6クラスになり、食堂や売店がなくなりました。真面目でお利口さんな生徒が多くなりましたが、その分、チャレンジャーはいなくなったように感じます。

初めてのことに取り組んだり、誰もやったことがないことを始めるということは、少なからず失敗するリスクを含みます。失敗することは誰もが怖いし、恥ずかしいと思う人もいるだろうけど、失敗しないとわからないこと、初めて得られることがあります。ただ誰かの真似をするだけだったり、初めもらったレールの上を進むのではつまらない。たった一度の人生です。たくさんチャレンジしてたくさん失敗しながらあなたオリジナルの人生を過ごしてください。



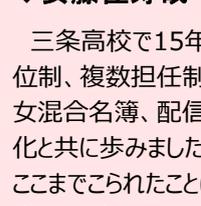
◆原田 浩二 教諭（大樹再任用）



帯広三条高校での10年間でじっくりと順を追って思い返せば実にいろいろな出来事が思い浮かびます。けれどもその10年間という時間への実感はまさに一瞬でした。50歳から60歳までの10年間は、10代から20代にかけてのそれとは全く違う時間感覚となって過ぎ去りました。あの頃はその10年が永遠とも言えるほどたっぷりとした可能性として与えられていました。高校生の皆さんはそのたっぷりとした可能性をそのまま所有しているのだと思ってください。毎日が新しい経験であり積み重ねていくことの出来る時間です。何でも出来るはず

です。私もこの先10年、そんな気持ちを持ち直して楽しんでいきます。

◆安藤佳寿哉 教諭（更別農再任用）



三条高校で15年間お世話になりました。単位制、複数担任制、校務支援システム、男女混合名簿、配信授業、分散登校などの変化と共に歩きました。たくさんの方に支えられてここまでこられたことに感謝します。放送局でも全国優勝2回、最高位4回、準優勝2回。全道大会の優勝は各部門の合計だけでも16回。ずっと素晴らしい局員たちと一緒に学べたことが私の宝物です。目まぐるしく情勢は変わり、必ずしも優しい日々だけとは限りません。どうぞ、地に根をしっかりと張り、荒風に負けないで活躍ください。





◆小元 淳也 教諭
(帯広柏葉(定)再任用)

私が高校生の頃は将来やりたいことも見えず、人生に悲観したり、夢物語のような妄想をしたり、行き当たりばったりの道を歩んできました。多くの人にお世話になったり迷惑をかけたりの連続でした。そのおかげでいろいろな経験をさせていただき、今振り返って言えることは、人生楽しいぞ！と、その一言です。辛い経験は5年も経てば笑い話になり、実感を持って思い出せるのは楽しかったことばかりです。4月からは新しい環境で仕事をしますが、次はどんな経験ができるか、今から楽しみです。そしてこれから私の何倍もの経験を重ねていける高校生の皆さんがうらやましいです。人生楽しんでいきましょう！



◆島田 聖二 教諭(帯広緑陽)

1年生が新しいクラスでawesomeな新2年生になりますように。2年生が新3年生としてsuper excitingな三条を生み出しますように。三柏戦も学校祭も球技大会も、すべての行事がコロナ以前の姿で実施できますように。そしてなによりみんなが幸せでありますように。ちょっと古めの校舎もガタガタきむ机も、中庭の見事な桜も日高山脈の美しい眺めも、授業中の静寂も放課後の歓声も、すべてがずっとずっと変わらずここにありました。だから忘れたくありません。いいえ忘れるもんですか。どうか元気で、お気をつけて。だいすきな三条、いままでありがとう。さよなら。

◆◆高澤 健 教諭(帯広柏葉)

教員を辞めようと思っていた20代の頃に情報関連の資格を取りました。その資格が大いに役立ちました。また、教員になってから携わっている陸上競技も、責任ある役職を任せられるまでになりました。人生日々学びと経験。持ち腐れている宝も、お門違いのことも、学びと経験を積むことでいつ何時どこで役立つかわかりません。三条生のみなさんもいろんなことに目を向けて、挑戦してみてください。わからなければ学び、やったことがなければ経験してみる。得たものは決して捨てず、自分なりの宝となればいいですね。肩を組んでの校歌と大騒ぎの応援歌の復活に期待！ 11年間お世話になりました。



◆◆坂田 直人 教諭(音更)

三条高校には、18年間勤務させていただきました。でもあつという間の月日でした。ここまでやってこられたのは、先生方をはじめ生徒たちあつてのことです。本当に感謝いたします。三条生は何事も一生懸命に頑張る、他人を思いやることができる素晴らしい生徒ばかりでした。最後にこの言葉を贈ります。「すべては準備で決まる」。これからも、皆さんの活躍を応援したいと思います。母校である音更高校に勤務できることを嬉しく思っています。これからは後輩たちのために、自分ができることを精一杯に取り組み、生徒たちと共にさらに成長していきたいと思っています。今までありがとうございました。



◆村松 俊輔 教諭(帯広柏葉)

三条高校に赴任して12年が経ちました。文武両道、学校祭や全校応援で一体となって盛り上げられる三条魂を感じた12年間でした。今振り返ってみるとあつという間で、生徒、保護者、教職員の皆さんに支えられて何とかやってこれました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

高校生活の3年間は本当にあつという間です。三条魂で今できることを一生懸命に取り組んでください。また、たわい無い話ができる友達を大切にしてほしいと思います。きっとそんな友達が様々な場面で心の支えになってくれるはず。これからも皆さんの活躍を祈っています。お元気で！三柏戦で逢いましょう！



◆本間 進一 事務主任
(本別事務長)

平成29年に三条高校に赴任して6年間事務として勤務させていただきました。三条に来てから仕事をする上で強く感じたことがあります。それは自分に関わる周りの方々に支えられて円滑に仕事できたことです。これは社会人限らず生徒の皆さんも現在勉強や部活動等色々な場面で周りの方々に支えられているかと思います。これから皆さんは夢と希望をもってそれぞれの道を歩んでいくと思いますが、支えてくれる方々に感謝しながら自分自身も周りの人を支えてあげるgive and takeの精神を忘れず大きく羽ばたいてください。陰ながら応援しています。ありがとうございました。

◆池田 昭仁 主幹教諭

◆石田 良秋 教諭

定年退職となりますが、本校での再任用となります。引き続きよろしくお祈りします！



ご退職・異動される先生方、本校のためにご尽力いただき誠にありがとうございました。ここに残る私たちは、より一層素晴らしい学校づくりに邁進することが諸先生方への恩返しと思っています。どうか今後も三条高校を見守っていただければ幸いです。はなむけに魯迅の言葉を贈ります。

「後ろを振り向く必要はない。あなたの前には、いくらでも道があるのだから。」

校長 合浦英則